



が20代後半でナチュラルを貫こうというのには、やっぱり無理があると思ふ。  
だからと言って、ホステスさんのようにケバくしよってと提案してはいけない。まして、女も大人と言われる年齢になったのなら、万人に受け入れられるナチュラル路線ではない、自分の個性をしっかりと持ったお洒落をしようではありませんか、と主張しているのだ。

私たちが住んでいるニッポンという国では、男たちが概してロリコン趣味なので(全員が、とは決して言っていないから、誤解しないでね、大人の女というものをなかなか受け入れられないのである。その結果、女たちはやがて30代を迎えようとする頃になっても、薄いピンクの口紅を中心にしたメイク、香水の代わりに石鹸の香りがするシャンプール、というお決まりのスタイルから抜け出すことができないのだ。そして巷には、甘い口調で「すみませぬ」と言っているのける、気持ち悪い大人の女があふれてくるという始末。もちろんかつて私も、ピンクの口紅やピンクのマニキュアばかりを使い、香水など一切持っていない時期があった。けれども、ある秋の午後、自分自身の顔や指の動きに、ピンクが似合わないなと感じたことにはっきりと気づいたのだ。そして私は刺激的な赤いルージュを唇に塗

私は29歳になった今でも「夜遊びをする」ことが大好きで、週末の晩など(一応ダンナ様の夕食の準備をしてから)素敵な女友達と二人、お気に入りのバーやクラブ系のディスコに出かけて行くのだけれど、その準備をしている時の楽しさといったら!夕方シャワーをして、音楽を聴きながらメイクをし(幼稚な顔が化けていく過程で、性格まで変わっていく)、マニキュアを丁寧に爪にほどこし、とびきりのお洒落をして(普段家で原稿を書いている時は、ぎよつとするほど汚い格好をしているから、このギャップはかなり激しい)、最後の仕上げにその夜の気分にあわしい香水をシュツツと振りかける。ああ、女に生まれて良かった、と実感してしまう瞬間である。  
マニキュア、口紅、香水というのはある意味で洋服以上に女を効果的に演出してくれる3大要素だと私は思っている。なぜなら、絶対に手を抜きたくないのだ。なぜなら、マニキュアは指のしなやかな動きを、口紅は唇の表情を、そして香水はその女が醸し出すイメージを、決定的に左右するものだと思うから。ところが、残念なことに、割合この3大要素を軽く見ている女たちが少なくないように感じるのだけれどいかが?数年前にアサノユウコという女優が、ナチュラルメイクとトナリデザインナルなファッションを売りにして輝かしい再生を果たしたが、私には滑稽に思えて仕方なかった。だって、女がナチュラルを売り物にできるのは、20代前半まで、と相場が決まっているもの。彼女は今だにナチュラル路線を曲げようとしなから、ますますこわい。私の周囲では、アサノユウコは最近なんだか小汚い、という声さえよく耳にするようになったほどだ。  
美容に大金をはたいている(と思われる)女優でさえそうなのだから、一般の女たち

## マンボカー パラダイス 夢のハワイ・ オアフ島ドライブ

行ってきました。夢の島ハワイ。なに言ってるのよ、ハワイくらいじゃあ、私に言わせりゃ笑うでしょうが、私に言わせりゃやっぱりハワイは夢の島です。最近なんだか忙しくて、どこへも行ってなかったんでもう行く前からハシヤギツバなし。それに以前ハワイに行ったときは時間がなくて

レンタカーも借りられなかったもんだから、今回は借りて行ったその日からずっとクルマ借りて島をグルグル回ってやるかと決め込んだのでした。当然ながら、ガンガンだつてレンタカー代だつて、日本半額以下!うれしいじゃありませんか。円高で1ドルは百円になつちゃうし、もうこの時期に

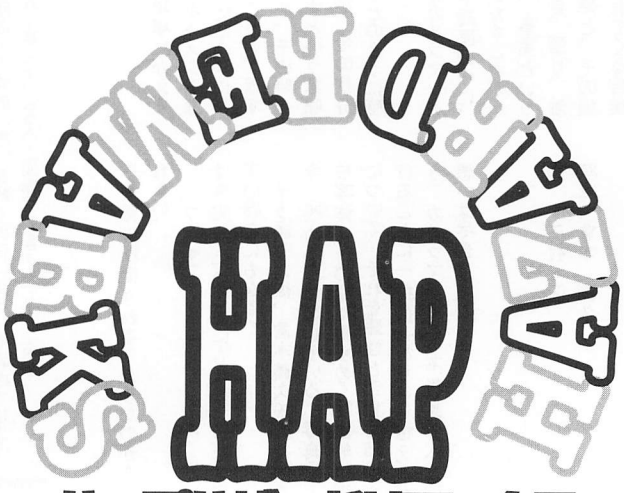
クルマ借りなかったらもったいないです。だって昔、大阪の万博の頃なんて1ドルが360円だったのよ。あーっ信じられない。てなわけでももちろん格安ツアーで行った私は、あらかじめ日本でレンタカーの予約を入れて、着いてまずはお決まりの半日観光、オプショナルツアーの押し売りシヨーム

## PARADISE YAMAMOTO

【プロフィール】元東京パノラママンボボーイズのリーダー。富士重工デザインセンターで、カーデザイナーとしても活躍していた。初代レガシィツーリングワゴン、アルシオーネS V Xなどのデザインを手掛ける。マンボ画家ソリマチアキラといっしょの東京ラテンムードデラックスも現在東京の音楽シーンで人気沸騰中。来年の4月には待望のCDが発売されるぞ。京都にはいつになったら来るのか!

プロフィール 1965年生まれ。  
同志社女子大学卒、(株)電通ブロックス勤務を経て、現在コピーライター。広告のほかFMラジオ番組のシナリオや出演もこなす。著書に「ありふれた無邪気が罪になる」(PHP研究所)、「キスマで、待てない」(大和書房)など。

MARUOKA IZUKO



パノラママンボカードライブ